

第173回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一 **模範解答**

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

〔丸数字は予想配点、合計 100 点〕

問題 1

問 1 価格差異 **④ 1,270,000** 円 (借方) 差異

数量差異 **④ 280,000** 円 (借方) 差異

問 2

二分法 順序は問わない

管理可能 差異 **④ 77,200** 円 (貸方) 差異

管理不能 差異 **④ 697,200** 円 (借方) 差異

四分法 順序は問わない

予 算 差異 **④ 130,000** 円 (貸方) 差異

変動費能率 差異 **④ 52,800** 円 (借方) 差異

固定費能率 差異 **④ 67,200** 円 (借方) 差異

操 業 度 差異 **④ 630,000** 円 (借方) 差異

問 3

仕 掛 品

前期繰越	④ 13,356,000	製 品	④ 87,360,000
材 料	35,560,000	原 価 差 異	④ 756,000
賃 金	④ 21,360,000	次 期 繰 越	9,660,000
製造間接費	27,500,000		
原 価 差 異	×		
	97,776,000		97,776,000

問 4 パーシャル・プランによる場合の直接材料費 **④ 36,830,000** 円

問5

損益計算書

(単位：円)

売上高		④	102,300,000	
売上原価				
期首製品棚卸高	8,640,000			
当期製品製造原価	87,360,000			
計	96,000,000			
期末製品棚卸高	④ 6,720,000			
差引	89,280,000			
原価差異	④ 1,028,553		90,308,553	
売上総利益		④	11,991,447	

※他の専門学校では、原価差異 945,000 円、売上総利益 12,075,000 円を解答として発表しているところもあるが、「資料のデータは当年度のものであるとして」という文章は、月初仕掛品・製品を考慮しないで追加配賦するという指示であると捉えられるため、上記の解答が正答と考える。

問題2

作業区分1 賃率差異	④ 15,200	円 (借方)	差異
作業区分2 作業時間差異	④ 19,200	円 (借方)	差異
賃率差異合計	④ 70,560	円 (借方)	差異
作業時間差異合計	④ 36,600	円 (貸方)	差異

問題3

問1

- ① これは両者を標準若しくは実際のみで計算することにより混合差異が生じるためである。④
- ② 管理可能性の点より、標準原価計算で重要視すべきは数量のズレにあり、製造側が管理不能な価格差異を除くためである。④

問2

材料受入価格差異	④ 1,350,000	円 (借方)	差異
期末材料棚卸高	④ 2,320,000	円	